出雲狛犬 ～歴史をつなぐ～ 新聞

令和7年8月
島根県立
修猷館高等学校
植野 花映
3年

江戸から続く出雲狛犬

島根県には「日本三大狛犬」に含まれるほど有名な「出雲式狛犬」（以下出雲狛犬）があります。なぜ、ともと中国（越）産の時代に宮廷内に置き物として使われていたと言われ、江戸時代中期に日本に伝播の時色のある狛犬が作られるようになった。

《補足》

日本三大狛犬
①江戸狛犬（東京）
②浪速狛犬（大阪）
出雲式狛犬（島根）のこと

江戸狛犬　浪速狛犬

・来待石の特徴
もと出尻が多かったが、まったり固まった粉岩、軟らかい
・粒子が微密で硬い。加工しやすい。ミクロ2部程度細かい穴を持つため吸水性が良く、ホルムアルデヒドやトルエンを吸着する。加熱ストーブ

狛犬尾　緊張感HP引用

来待石がガギ

出雲狛犬の特色の一つに「来待石が使われていることが挙げられます。来待石とは、江戸時代に宍道湖の南に位置する来待で採れる石材のことです。この来待石は、江戸時代に宍道湖の南に位置する来待で採れる石材のことです。この来待石は、江戸時代に宍道湖の南に位置する来待で採れる石材のことです。

獅子しかいない出雲狛犬？

唐江さんによると、出雲狛犬には10個の特徴があると聞いた（資料1）。その中でも①角がない、獅子、獅子で一対、③2種類の姿勢に注目した。まず獅子、のが分からない。狛犬なのになぜ獅子なのだろうと思った。狛犬には「阿」あ、の口（口を開いている）か「吽」（口を閉じている）の片方しか付いているものが狛犬とされている。しかし、出雲狛犬には吽に角がない。これは獅子と狛犬の区別が曖昧になったため、独自の派生*が生まれた。他の地では狛犬であるため、大切にしたい。

資料1

出雲式狛犬の特徴
1 来待石でできている
2 獅子しかいない
3 二種類の姿勢 ←尾の巻き、男獅子
4 垂れ耳である
5 立耳である
6 巻毛がある
7 コ字先が大きい
8 眉間の表現がない
9 脚元と板石が一体化している
10 丸台座と角台座がある

①角がない
②獅子一対
③尾の巻き
④垂れ耳
⑤立耳
⑥巻毛
⑦コ字先
⑧眉間
⑨脚元と板石
⑩丸台座

居獅子

勇獅子

勇獅子がいない

※1 原型の獅子しかいない狛犬
→ 居獅子（かしらい）と言う

巻物については、「居獅子（座型）」と「勇獅子（構え型）」の2種類がある（資料1）。比べて見ると分かるように、居獅子は座っている巻物に比べ、勇獅子は腰を高く上げて前傾に身構えた巻物となっている。他東では居獅子と同じような巻物のものが多い。勇獅子は出雲狛犬だけで繋らず加工しやすい来待石であったからこそできた表現だ。ちなみに見た勇獅子は、前足から胴の高、耳の先までとっても小さくなかなかの迫力のある表現が表現もしかった。

珍しい狛犬

写真①

・海気平癒、諸災厄除の居獅子
祈願時に銀紙成就時に金紙を貼るためのような風になった。貴重な記録

写真②

写真③ 草木におおわれる社、狛犬

写真のMYBEST 狛犬2選

野白神社 →
他の狛犬とはとても雰囲気の違ったかわいらしい。こんなてがわりもいい。

← 雲南広神社
馬そっくりの大きさで、姿勢はうずくまっている。
笑顔のような表情。

編集後記

今年は新聞作成にあたりインタビューを受けて、たくさんお話を聞いてる。専門的な意見を聞いの勉強度を上げることができた。今回狛犬について調べようと思ったきっかけとなった謎も解明できたと思う。また、まだまだ解明できていない謎もあるので、これからも調べようと思う。

今回は出雲狛犬だけ解説したが、他の地域の狛犬についてもまとめたい。また、今回の新聞は、まだまだ改善点が多くあるので、次回はもっとよくしたい。

お世話になった方々

来待ストーン宍道湖
廣瀬江子さん
雲南広神社宮司
合本 敏さん

資料

・『狛犬の神社』
・『出雲石見狛犬見聞録』
・来待ストーン企画展の資料
・狛犬ウォーク

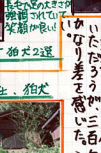
忘れる神社 無くなる狛犬

私は狛犬のある神社が載っている本を見て、実際に行く場所を求めていた。だが、ほとんどは狛犬が撤去された所や草が生い茂り所々ひびが入り狛犬の姿が見られない所もあった。狛犬の老朽化（写真③）が思ったより進んでいないために、このような状態になったと考えられる。

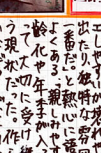
私が行った神社の中の賀茂豆紀神社では宮司の合本さんに境内の狛犬について説明してもらう機会があった。合本さんは、来待石を使う珍しい狛犬だと言い、狛犬は来待石を使う傾向があるとしやすい。だが他の石と比べると柔らかく加工しやすい。だが、来待石は、粒子が微密で硬い。加工しやすいという現代だった。作り継ぐ職人が途絶えてきたと思う。しかし、仕上がりの高さは、受け継ぐ職人の技術が高いことが分かった。三百年余り経ったが現代でもほとんどの新聞も機に現状を知ってほしいなり差を感じた。

さんに、境内の狛犬について説明してもらう機会があった。合本さんは、来待石を使う傾向があるとしやすい。だが他の石と比べると柔らかく加工しやすい。だが、来待石は、粒子が微密で硬い。加工しやすいという現代だった。作り継ぐ職人が途絶えてきたと思う。しかし、仕上がりの高さは、受け継ぐ職人の技術が高いことが分かった。三百年余り経ったが現代でもほとんどの新聞も機に現状を知ってほしいなり差を感じた。

私が行った神社の中の賀茂豆紀神社では宮司の合本さん敏



写真③ 草思が進んだり、手入れをしていないために、このような状態になったと考えられる。



私の好きな狛犬ランキング